

文化庁メディア芸術祭青森展 まぼろし村と、あなたとわたし 開催のご案内

国内外の優れたメディア芸術作品 約80点が、青森に集結します！



菅野 創 / 山口 崇洋
「SENSELESS DRAWING BOT」



Niantic Labs (現: Niantic, Inc.)
「Ingress」



八谷 和彦「視聴覚交換マシン」



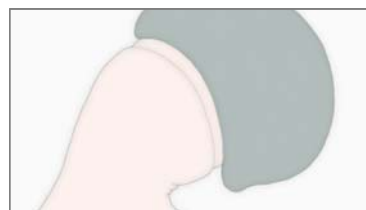
安野 太郎「ゾンビ音楽」



安彦 良和
「機動戦士ガンダム
THE ORIGIN」



花沢 健吾
「アイアムアヒーロー」



水尻 自子「かまくら」

文化庁メディア芸術祭青森展「まぼろし村と、あなたとわたし」では、平成28年3月12日(土)から27日(日)までの16日間にわたり、青森県立美術館において、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガなどのメディア芸術の優れた作品、約80点を紹介します。

「SENSELESS DRAWING BOT」や「ゾンビ音楽」など、インタラクティブな作品や五感を刺激する作品、「視聴覚交換マシン」などの体験型作品に加え、マンガ「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」「アイアムアヒーロー」など、青森県にゆかりのある作家の作品を展示・上映します。

メディア芸術作品の数々をぜひお楽しみください。

本件に関する
問い合わせ先

文化庁メディア芸術祭青森展実行委員会

(青森県環境生活部県民生活文化課内)

〒030-8570 青森市長島1-1-1

Tel: 017-734-9208 Email: mediaartsaomori@pref.aomori.lg.jp

開催概要

タイトル	文化庁メディア芸術祭青森展 まぼろし村と、あなたとわたし
会 期	平成28年3月12日(土)～27日(日)
開館時間	9:30～17:00 (最終入館 16:30 まで)
会 場	青森県立美術館(青森市安田字近野185) <PR 展示・プレ企画> 青森会場… teco gallery(青森市古川一丁目14-3-B) 会期: 2月7日(日)～3月13日(日) 11:00～18:00 (日曜日は17:00 まで) 弘前会場… 弘前市中心商店街 会期: 作品制作… 2月27日(土)～28日(日) 映像作品上映… 3月4日(金)～6日(日)、 11日(金)～13日(日) 八戸会場… 八戸ポータルミュージアムはっち (八戸市三日町11-1) 会期: 3月4日(金)～21日(月・祝) 9:00～21:00 十和田会場… 十和田市現代美術館(十和田市西二番町10-9) 会期: 3月5日(土)～21日(月・祝) 9:00～17:00 (休館日の月曜日を除く)
入 場 料	無 料
主 催	文化庁
共 催	青森県
後 援	青森県教育委員会、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、青森テレビ、青森放送、朝日新聞青森総局、エフエム青森、FM アップルウェーブ、NHK 青森放送局、河北新報社、コミュニティラジオ局 BeFM、産経新聞社青森支局、デーリー東北新聞社、東奥日報社、日本経済新聞社青森支局、八戸テレビ放送、フジテレビ報道局青森支局、毎日新聞青森支局、陸奥新報社、読売新聞青森支局(順不同)
運 営	文化庁メディア芸術祭青森展実行委員会 (青森県環境生活部県民生活文化課内) 〒030-8570 青森市長島1-1-1 TEL: 017-734-9208 Email: mediaartsaomori@pref.aomori.lg.jp URL: http://mediaarts-aomori.com

マンガ、アニメ、メディアアートなど、現代の表現に注目する「文化庁メディア芸術祭」



第18回文化庁メディア芸術祭受賞作品展
(2014年度)

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。1997（平成9）年度より毎年優秀な作品を選出し、国立新美術館（東京）にて受賞作品展を開催しています。

そして、2002（平成14）年度より国内の様々な都市にて、受賞作品による展覧会を実施し、現在における多様な表現を紹介。2016年3月の青森展では、過去の受賞作品を中心に独自に企画し、ひろがり続けるメディア芸術を紹介します。

青森展は、本会場のほか県内4つの会場でPR展示やプレ企画を展開します

本会場である青森県立美術館では、過去19回の「文化庁メディア芸術祭」における受賞作品を中心に、テーマ「まぼろし村と、あなたとわたし」に沿って、6つの章立てで作品を選定し、展示・上映します。

また、青森県立美術館のほか、青森市、弘前市、八戸市、十和田市において、芸術関連施設・団体と連携してPR展示やプレ企画を展開します。

文化庁メディア芸術祭青森展「まぼろし村と、あなたとわたし」では、多彩な表現を広く、また身近に触れていただけるよう、紹介します。



展示・上映作品

テーマ「まぼろし村と、あなたとわたし」を軸に、6つの視点から26作品を体感する本会場

本会場では、これまでのメディア芸術祭受賞作品を中心に、25名の作家による26作品を展示します。

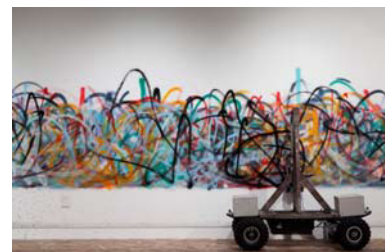
ここでは、青森展のテーマ「まぼろし村と、あなたとわたし」から、第1章「まぼろし村」と「ワザ」、第2章「まぼろし村」と「日常」、第3章「まぼろし村」と「自然」、第4章「まぼろし村」広場、第5章「まぼろし村」に流れる時間、第6章「まぼろし村」と「カミサマ」たちの6つの章立てで紹介します。スマートフォンで体験できる作品から映像、アニメーション、マンガまで、多彩な表現を展望いただけます。

【見どころ】

SENSELESS DRAWING BOT

菅野 創／山口 崇洋

二重振り子のカオス性をもった動きを利用し、スプレーを用いて抽象的なラインを描画するドローイングマシン。電動スケートボードが左右に運動することによって、振り子の振れ幅を増幅させ、運動量がある閾値を超えると、瞬く間に壁面へ描画を行う。「グラフィティ」のタギング行為における人間の身体や主張を排除し、描画プロセスのダイナミズムや即興性、記号性といった要素のみを提示することで、その行為の本質を探る。



© So KANNO, Takahiro YAMAGUCHI

ゾンビ音楽

安野 太郎

本作は、リコーダーにエア・コンプレッサーで空気を送り、音を発する自作自動演奏ロボットによる音楽だ。ロボットには、機械が人間にいかにか近付くかという命題があるが、本作の機械は、人間のように演奏しない。ゆえにこの機械は厳密にはロボットとは呼べない。生きている人間の逆(死)を指向する本作の機械(ゾンビ)が、「ゾンビ音楽」を演奏するのである。

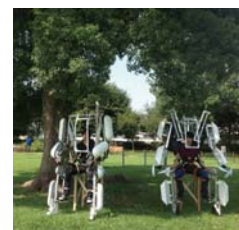


© Taro YASUNO

スケルトニクス

白久 レイエス樹／阿嘉 倫大／中野 桂樹

腕や足の動きに追従して動くリンク機構を用いて四肢の動作すべてを拡大し、通常の人体では表現できないダイナミックな腕や足の動きを実現できる動作拡大型スーツ。動力は人力のみでアクチュエータ(エネルギーを物理的な運動へと変換する機構)は搭載されておらず、装着された人間にはスーツの重量と拡大率に比例した負荷がかかる。



©2013 Skeletonics Ink.
All Rights Reserved.

第1章 「まぼろし村」と「ワザ」

私たちは自らの身体と技術を用いて、様々なモノ（道具や作品）をつくります。できたモノは共有されることで、次の時代のモノをつくるための糧となります。その時、私たちはモノそのものを見ると同時に、そのモノに蓄積された「ワザ（技術）」を見ているのです。この章では人間の身体と思考に直結した「ワザ」をみせる作品たちをご覧ください。

「Ingress」 第18回エンターテインメント部門 大賞	Niantic Labs（現: Niantic, Inc） （創業者: ジョン・ハンケ） 米国
「ロボット AIBO」 第3回デジタルアート（インタラクティブ）部門 大賞	大槻 正（ソニー株式会社 ER 事業準備室室長、 開発チーム代表）/空山 基（イラストレーター） 日本
「デジタル・ガジェット 6,8,9（Loop Scape）」 第7回アート部門 大賞	クワクボ リョウタ 日本
「Hietsuki Bushi」 第15回エンターテインメント部門 新人賞	Omodaka 日本
「古事記 日向篇」 第17回アニメーション部門 審査委員会推薦作品	山村 浩二 日本
「匂いがかがれるかぐや姫～日本昔話 Remix～」 第11回エンターテインメント部門 奨励賞	原 倫太郎+原 游 日本
「KAGE-table」 第1回デジタルアート（インタラクティブ）部門 大賞（関連作品）	plaplaX（近森 基） 日本



「ロボット AIBO」



「デジタル・ガジェット 6,8,9」
（Loop Scape）



「KAGE-table」

第2章 「まぼろし村」と「日常」

何気なく日々積み重なっていく日常。実は「まぼろし」の如く小さな奇跡の重なりによる、繊細なバランスによって成り立つのではないのでしょうか。そんな日常の中では、ある晴れた日の午後にショッピングモールの広場でスペースシャトルの打ち上げを目撃し、その帰りに地球からの独立を宣言する革命指導者と出会う可能性がなくはないのです。

「ちーちゃんちょっと足りない」 第18回マンガ部門 新人賞	阿部 共実 日本
----------------------------------	-------------

「The Saddest Day of My Youth」 第15回アート部門 優秀賞	Brian ALFRED 米国
「王道の狗」 第4回マンガ部門 優秀賞	安彦 良和 日本
「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」 第15回マンガ部門 審査委員会推薦作品	安彦 良和 日本
「つながる天気」 第15回アート部門 優秀賞	片山 義幸 日本



「ちーちゃんはちょっと足りない」



「The Saddest Day of My Youth」

第3章 「まぼろし村」と「自然」

「メディア芸術」は私たちと自然を遠ざけると同時に、近づかせることができます。私たちは「人間」である限りにおいて、なまの自然を知覚することはできません。ならば私たちが「自然」と思っているこの風景は何なのか。この章ではメディア芸術と私たちの間に現れるまぼろしの如きモノたちの働きを通じて、私たちと自然との接点を考えます。

「海獣の子供」 第13回マンガ部門 優秀賞	五十嵐 大介 日本
「栞と紙魚子」 第12回マンガ部門 優秀賞	諸星 大二郎 日本
「アニマルダンス」 第13回アニメーション部門 奨励賞	大川原 亮 日本



「海獣の子供」

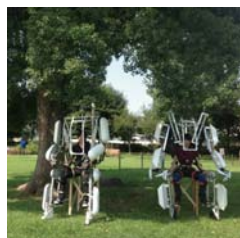


「栞と紙魚子」

第4章 「まぼろし村」 広場

「まぼろし村」の広場はいつでも・誰にでもひらかれています。そこでは誰もが住人にも旅人にもなり得、自らのカラダとココロをもとに遊ぶことができます。この章では私たちの身体感覚を広げる作品たちを展示し、マンガライブラリーを併設することで、私たちの体と心を遊ばせることのできる広場とします。

「スケルトニクス」 第17回エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品	白久 レイアス樹／阿嘉 倫大／中野 桂樹 日本
「ゾンビ音楽」 第17回アート部門 審査委員会推薦作品	安野 太郎 日本



「スケルトニクス」



「ゾンビ音楽」

第5章 「まぼろし村」に流れる時間

時間は私たちの身体を否応なく侵食します。絶えず訪れる忘却と記憶の連鎖の狭間で、私たちは他者や場所との関係を見出し、自らの身体や感覚を変容させていきます。その岬に立つ「私たち」の目には何がうつるのでしょうか。この章では人が存在する場所と、そこに関わる行為の軌跡をうつす作品たちを展示します。

「孤高の人」 第14回マンガ部門 優秀賞	坂本 眞一／ 原案・新田 次郎著『孤高の人』 日本
「Physical Forest」 第15回アート部門 審査委員会推薦作品	小山 泰介 日本
「Dancing for Airports (→arrival) , Dancing for Airports (departure→)」 第16回アート部門 審査委員会推薦作品	パラモデル 日本



「孤高の人」



「Dancing for Airports (→arrival) ,
Dancing for Airports (departure→)」
(二枚組展示、画像は(→arrival))

第6章 「まぼろし村」と「カミサマ」たち

どんな村にもその村を守り、仇なす「カミサマ」たちがいるものです。そんなカミサマたちはいつまで人といってくれるのでしょうか。今を生きる私たちは「カミサマ」と何をつかつかつことができるのでしょうか。この章では時間と空間、生物と非生物を越えたところに存在する作品たちを紹介することで、私たちが自らの「まぼろし村」を築くための方法が様々にあることを提示します。

「千年万年りんごの子」 第16回マンガ部門 新人賞	田中 相 日本
「死者の書」 第9回アニメーション部門 優秀賞	川本 喜八郎 日本
「金魚解放運動」 第18回アート部門 審査委員会推薦作品	石橋 友也 日本
「anima」 第18回アート部門 審査委員会推薦作品	笹岡 由梨子 日本
「まだ かみさまが いたるところにいたころの ものがたり」 第15回アート部門 新人賞	チームラボ 日本
「SENSELESS DRAWING BOT」 第15回アート部門 新人賞	菅野 創／山口 崇洋 日本



「死者の書」



「金魚解放運動」



「anima」



紫舟+チームラボ
「まだかみさまが いたるところに
いたころの ものがたり」

映像作品

作者の自由な表現をスクリーンで鑑賞。

アニメーションと映像の多様な表現を一望します。

音と絵と時間とが組み合わされた総合的なメディア芸術であるアニメーションと映像作品。見るものをスクリーンの向こう側へ引き込む数々の作品をご覧ください。

【見どころ】

ジョバンニの島

西久保 瑞穂

設定は 1945 年、北海道沖に戦火を免れて浮かぶ小さな島・色丹島（しこたんとう）。ここに、戦争の実感がないまま 10 歳の兄・純平と 7 歳の弟・寛太が暮らしていた。しかし 8 月 15 日の敗戦に伴い、彼らの生活に大きな変化が訪れる。明日にでも米国軍がやってくるのでは…と不安な日々を送る島民たちであったが、突然上陸したのはソ連軍だった。そして、いつの間にか国境線が変わり、やがて島にソ連兵の家族が移住することになる。島民と新しい隣人との共同生活が始まるのだがー。戦争の不条理と悲劇を「純平」の目線で辿りながら、言葉と文化の違いという壁を越えて子どもたちの絆が芽生えていくさまが描かれる。日本、ロシア、アルゼンチン、韓国、エストニア、アメリカ、イタリアからの多国籍スタッフが集結して送る、実話に基づいたアニメーション。



©2014 JAME

サマーウォーズ

細田 守

数学だけが取り柄の少年が、長野の田舎で憧れの先輩とその親戚達と共に、“OZ”と呼ばれる仮想空間から勃発した世界の危機に挑む。インターネットと田舎の大家族という全くかけ離れたモチーフを、豪快なバトルと繊細な人間ドラマで魅せる夏のアクション家族映画。

17 歳の夏休み、天才的な数学力を持ちながらも内気な性格の小磯健二は、憧れの先輩・篠原夏希の田舎でフィアンセを演じるというアルバイトを頼まれる。その夜、健二の携帯に謎の数字が連なる暗号メールが届く。彼はその解読に夢中になるのだが…。翌朝、世界は大きく一変していた。健二を騙る何者かが、世界を大混乱に陥れていたのだ。健二と夏希、そして大家族の面々が、一致団結して世界の危機に立ち向かう！



© 2009 SUMMERWARS FILM PARTNERS

上映作品

タイトル	作 者	メディア芸術祭受賞歴
たまこラブストーリー	山田 尚子	第 18 回アニメーション部門新人賞
サマーウォーズ	細田 守	第 13 回アニメーション部門大賞
ジョバンニの島	西久保 瑞穂	第 18 回アニメーション部門優秀賞
エヴァンゲリオン新劇場版：Q	庵野 秀明	第 17 回アニメーション部門優秀賞
ほったまろびより	吉開 菜央	第 19 回エンターテインメント部門新人賞
家族のはなし	上島 史朗 他	第 18 回エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
MEDIA PRACTICE 2011-2012	大原 崇嘉 他	第 16 回エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
森の伝説 第二楽章	手塚 眞	第 18 回アニメーション部門 審査委員会推薦作品

短編映像プログラムA

「Entertainment Selection 2015ーエンターテインメント部門セレクション 2015」

タイトル	作 者	メディア芸術祭エンターテインメント部門受賞歴
3RD	Hedwig HEINSMAN/Niki SMIT/ Simon van der LINDEN	第 18 回優秀賞
Kintsugi	APOTROPIA(Antonella MIGNONE/ Cristiano PANEPUCCIA)	第 18 回優秀賞
handiii	近藤 玄大/山浦 博志/小西 哲哉	第 18 回優秀賞
Ingress	Niantic Labs (現: Niantic, Inc) (創業者: ジョン・ハンケ)	第 18 回大賞
忍者女子高生 制服で大回転	『忍者女子高生』プロジェクトチーム	第 18 回 審査委員会推薦作品
5D ARCHIVE DEPT.	香月 浩一	第 18 回新人賞
のらもじ発見プロジェクト	下浜 臨太郎/西村 斉輝/若岡 伸也	第 18 回優秀賞
技術力の低い人 限定ロボコン (通称:ヘボコン)	石川 大樹	第 18 回 審査委員会推薦作品

短編映像プログラムB「Portrait of Japanese Animation – 日本の映像描写」

タイトル	作 者	メディア芸術祭受賞歴
Remember me	端地 美鈴／「Remember me」制作チーム（代表：酒井 洋輔）	第 18 回エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
rain town	石田 祐康	第 15 回アニメーション部門新人賞
まつすぐな道でさみしい	岡本 将徳	第 16 回アニメーション部門 審査委員会推薦作品
記憶全景	横田 将士	第 12 回アート部門 審査委員会推薦作品
森の木琴	原野 守弘/西田 淳/菱川 勢一/松尾 謙二郎/津田 三朗/大磯 俊文	第 15 回エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
1347smiles	新井 風愉	第 17 回エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
ab_rah	吉野 耕平	第 14 回エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
ISSEY MIYAKE A-POC INSIDE.	佐藤 雅彦+ユーフラテス	第 11 回アート部門優秀賞
つみきのいえ	加藤 久仁生	第 12 回アニメーション部門大賞

短編映像プログラムC 「Animated Short Program 2015 — 短編アニメーション 2015」

タイトル	作 者	メディア芸術祭アニメーション部門 受 賞 歴
Poker	水江 未来／中内 友紀恵	第 18 回審査委員会推薦作品
境界線	中田 彩郁	第 18 回審査委員会推薦作品
コップの中の子牛	朱 彦潼	第 18 回新人賞
PADRE	Santiago 'Bou' GRASSO	第 18 回優秀賞
The Wound	Anna BUDANOVA	第 18 回大賞

あおりセレクション

タイトル	作 者	メディア芸術祭受賞歴
布団	水尻 自子	第 16 回アニメーション部門新人賞
かまくら	水尻 自子	第 17 回アニメーション部門 審査委員会推薦作品
幕	水尻 自子	
amazarashi「夏を待っていました」	YKBX	第 14 回エンターテインメント部門優秀賞
amazarashi “クリスマス”	YKBX	第 15 回エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
太宰治短編小説集 走れメロス	渋谷 修平	第 14 回エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
寺山修司 & 谷川俊太郎 ビデオ・レター		2006 年 日本のメディア芸術 100 選に選出

上映スケジュール

県立美術館 1F シアター

3月20日(日)	10:30～ 14:00～	たまこラブストーリー サマーウォーズ
3月21日(月・祝)	14:00～	ジョバンニの島
3月26日(土)	11:00～ 14:00～	森の伝説 第二楽章 エヴァンゲリオン新劇場版：Q
3月27日(日)	13:00～	ほったまろびより MEDIA PRACTICE 2011-2012

◇ 上記以外の作品・プログラムについては、県立美術館 1F スタジオにて、3月20日(日)、21日(月・祝)、26日(土)、27日(日)の4日間、10時から順次上映します。

マンガライブラリー

文化庁メディア芸術祭歴代の受賞作品の中から「まぼろし村と、あなたとわたし」のテーマをもとに選んだ作品や、青森ゆかりのマンガ家の作品を選び、配架します。

観客がそれぞれのペースでゆっくり楽しめるマンガライブラリーです。

タイトル	作 者	メディア芸術祭受賞歴
バガボンド	井上 雄彦／原案：吉川 英治	第4回大賞
王道の狗	安彦 良和	第4回優秀賞
ヘルタースケルター	岡崎 京子	第7回優秀賞
蟲師	漆原 友紀	第7回優秀賞
毎日かあさん カニ母編	西原 理恵子	第8回優秀賞
海街 diary	吉田 秋生	第11回優秀賞
栞と紙魚子	諸星 大二郎	第12回優秀賞
海獣の子供	五十嵐 大介	第13回優秀賞
孤高の人	坂本 眞一／ 原案・新田 次郎著『孤高の人』	第14回優秀賞
機動戦士ガンダム THE ORIGIN	安彦 良和	第15回審査委員会推薦作品
アイアムアヒーロー	花沢 健吾	第15回審査委員会推薦作品
テルマエ・ロマエ	ヤマザキ マリ	第15回審査委員会推薦作品
進撃の巨人	諫山 創	第14回・第15回 審査委員会推薦作品
宇宙兄弟	小山 宙哉	第15回審査委員会推薦作品
千年万年りんごの子	田中 相	第16回新人賞
ジョジョリオンー ジョジョの奇妙な冒険 Part8ー	荒木 飛呂彦	第17回大賞
五色の舟	近藤 ようこ／原作：津原 泰水	第18回大賞
アオイホノオ	島本 和彦	第13回・第14回審査委員 会推薦作品、第18回優秀賞
チャイニーズ・ライフ	李 昆武／フィリップ・オティエ／ 訳：野嶋 剛	第18回優秀賞
春風のスネグラチカ	沙村 広明	第18回優秀賞
ちーちゃんはちょっと足りない	阿部 共実	第18回新人賞
かくかくしかじか	東村 アキコ	第19回大賞

イベント

トーク

「文化庁メディア芸術祭青森展 オープニングアーティストトーク」

出展アーティストを交えてのトークディスカッションを通して、メディア芸術の現在と、これからの広がり、メディア芸術の可能性に迫ります。

開催日時： 3月12日(土) 10:00～11:30

会場： 県立美術館シアター

参加アーティスト(予定)： 安野太郎、石橋友也、近森基、
山口崇洋 他

モデレーター： 工藤健志(県立美術館学芸主幹)、奥脇嵩大(県立美術館学芸員)

定員： 200名



文化庁メディア芸術祭青森展開連イベント 青森県/コンテンツ・ツーリズム実行委員会主催事業 「三上枝織 トークイベント」

青森県出身の人気声優、三上枝織氏(アニメ「進撃の巨人」の準主役級キャラクター クリスタ・レンズを担当)を招き、トークイベントを開催します。

開催日時： 3月12日(土) 13:00～

会場： 県立美術館シアター

定員： 200名



ライブ

「Braun Tube Jazz Band ライブパフォーマンス」

古い電化製品をユニークなコンセプトと最新の技術で楽器へとよみがえらせ、独自の表現を生み出し続ける音楽家/アーティストの和田永氏。第13回アート部門の優秀賞受賞作である、ブラウン管のテレビをパーカッションのように叩いて演奏する作品「Braun Tube Jazz Band」のライブパフォーマンスを行います。



開催日時： 3月12日(土) 16:00～ **会場：** 県立美術館シアター

ライブ

安野太郎「ゾンビ音楽 ライブパフォーマンス」

リコーダーにエア・コンプレッサーで空気を送り、音を発する自作自動演奏ロボットが音楽を奏でる作品「ゾンビ音楽」のライブパフォーマンスを行います。

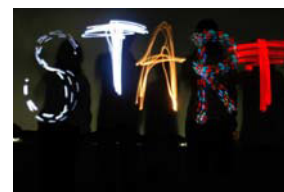


開催日時： 3月12日(土) 15:30～ **会場：** 県立美術館企画展示室内

ワークショップ

トーチカ「ピカピカ ワークショップ」

第10回アニメーション部門優秀賞受賞作である、空中にペンライトの光で絵を描いたトーチカのアニメーション作品「ピカピカ」。みなさんにも「ピカピカ」の作品づくりを体験してもらいます。



開催日時： 3月13日(日) 10:30～

会場： 県立美術館シアター 他

映画「機動戦士ガンダム」公開35周年記念イベント 「安彦良和 アーティストトーク」

「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」の作者であり「機動戦士ガンダム」のキャラクターデザインを手掛けた安彦良和氏によるアーティストトークを行います。

開催日時： 3月13日(日) 13:30～

会場： 県立美術館シアター

モデレーター： 五十嵐浩司氏(アニメーション研究家)

ワークショップ

八谷和彦「視聴覚交換マシン 体験ワークショップ」

メディアアーティスト 八谷和彦氏が開発した、自分と他人の視聴覚を交換してしまう「視聴覚交換マシン」。みなさんにもこの不思議な感覚を体験してもらいます。(2006年日本のメディア芸術100選に選出)



開催日時： 3月19日(土)～21日(月・祝) 10:30～、13:30～、15:00～

会場： 県立美術館企画展示室内

「文化庁メディア芸術祭青森展 ギャラリーツアー」

県立美術館学芸員が、本展の楽しみ方を伝えるギャラリーツアーを行います。

開催日時： 3月19日(土) 11:00～、 3月26日(土) 14:00～

集合場所： 県立美術館B2Fエレベーターホール

ライブ クロージングイベント

「柴田聡子 ライブパフォーマンス」

メディア芸術祭受賞作品「MEDIA PRACTICE 2011-2012」「ほったまるびより」にボーカルやパフォーマーとして参加している柴田聡子氏によるライブパフォーマンスを行います。

開催日時： 3月27日(日) 15:00～

会場： 県立美術館シアター



「Ingress 文化庁メディア芸術祭青森展 公式ミッションを楽しもう」

本展覧会では、第18回エンターテインメント部門で大賞を受賞した「Ingress」を通じて本県周遊を楽しんでいただこうと、12の公式ミッションを設定しました。ミッションをクリアした方には「ミッションメダル」の進呈のほか、抽選で青森県産品を進呈します。



PR展示・プレ企画

「青森会場」

第15回アート部門で大賞を受賞した山本良浩氏の映像作品「Que vos feio (醜い声)」を、青森市の中心商店街のギャラリーにて上映します。



開催日時： 2月7日(日)～3月13日(日) 11:00～18:00(日曜日は17時まで)

会場： teco gallery(青森市古川一丁目14-3-B)

企画・運営： エアーズ AIRS

「弘前会場」

弘前市の中心商店街において、第10回アニメーション部門で優秀賞の「ピカピカ」を制作したアーティスト、トーチカとともに作品制作を行うプロジェクトを実施するほか、街中の一角にスクリーンをたて、屋外で映像作品の上映を行います。



開催日時： 作品制作… 2月27日(土)～28日(日)

映像作品上映… 3月4日(金)～6日(日)、11日(金)～13日(日)

会場： 弘前市中心商店街

企画・運営： NPO 法人 harappa

「八戸会場」

「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」のパネル展示のほか、「NEW スーパーマリオブラザーズ Wii」をみんなではっち特設の巨大画面で遊ぶイベントを開催します。



開催日時： 3月4日(金)～3月21日(月・祝) 9:00～21:00

会場、企画・運営： 八戸ポータルミュージアムはっち
(八戸市三日町11-1)

「十和田会場」

十和田市出身の映像作家、水尻自子氏のアニメーション作品「布団」「かまくら」「幕」の3作品を上映します。



開催日時： 3月5日(土)～3月21日(月・祝)

9:00～17:00

(休館日の月曜日を除く)

会場、企画・運営： 十和田市現代美術館(十和田市西二番町10-9)